

**田中かく** 実業家。婿養子の夫が死去、家業を継いだ長男も死去し、女性のための株式会社(田中一誠堂)で事業拡大。

たなかかく

安政の大獄・1859 = 武蔵国飯能(埼玉県飯能市)に生れる。\_旅籠屋(田中屋旅館)を営む田中忠三の一人娘。

桜田門外変・1860 = 1歳 :

明治維新・・1868 = 9歳 : 神官小能志摩の寺子屋(のちの飯能第一小学校)で勉強を始め、

学問のすすめ1872 = 13歳 : \_東京に奉公に出、

明治6年政変 1873 = 14歳 : 幕末から飯能へ出張教授に来て田中屋旅館に宿泊していた\_井上頼因に入門して、漢学を学ぶ。ここで、同じ熊谷県出身の先輩で女医第1号になった荻野吟子と出会い、生涯親交。

初の民間工場1875 = 16歳 : 権訓導の資格を得、甲府の内藤満寿子経営の女塾に教師として招かれ、吟子と甲府に赴くが、三つの反乱・1876 = 17歳 : 内藤が眼病になり休校となって帰郷。\_父が死去したため、一家の大黒柱になり、

西南戦争・・1877 = 18歳 :

明治14年政変1881 = 22歳 :

新体詩抄・・1882 = 23歳 : \_名栗村の吉田家から貞助を養婿子として迎え、家業の多角化を考え始め、

帝国大学始・1886 = 27歳 :

帝国憲法発布1889 = 30歳 :

日清戦争始・1894 = 35歳 :

日清戦争終・1895 = 36歳 :

白馬会・・・1896 = 38歳 : \*新聞販売所を設ける。

\_事業は順調であったが、夫が詐欺にあい、多大な借財を負った。夫を励まし、家屋敷・家財道具一切を売って返済し、再出発。ささやかな玩具文具類の小売から漸次販路を拡大、師井上頼因に指導受けながら、国定教科書の売りさばきの権利をも獲得、お茶の販売や新聞{飯能時報}を発行するなど、才覚を発揮、

\_家運も立ち直り、土地家屋も取り戻したが、

日露戦争始・1904 = 45歳 :

日露戦争終・1905 = 46歳 :

満鉄発足・・1906 = 47歳 : \_夫が死去。

\_家業を守り、

\_やがて長男宇平(二代貞助)が跡を継ぐ。

明治天皇没・1912 = 53歳 : \*印刷部を新設、屋号を田中一誠堂と改めたが、

大正政変・・1913 = 54歳 :

原敬首相暗殺1921 = 62歳 :

水平社結成・1922 = 63歳 :

海軍軍縮条約1930 = 71歳 : \*宇平も死去。かくは宇平の妻ヒサを社長として女ばかりの株式会社を発足させ、

満州事変・・1931 = 72歳 :

\_事業を拡大しながら、

日中戦争始・1937 = 78歳 :

\_ "一誠堂のオバアチャン"として皆から親しまれ、飯能に多くの文化を遺して、

大政翼賛会・1940 = 81歳 :

テレビ放送始・1953 = 94歳 : \_没した。

インターネット「ぐるーぶ倶楽部in飯能」、